

「コンビニエンスストア等の深夜営業規制とライフスタイル見直しに関する
アンケート調査速報 ～特に防犯の視点から」

(独) 建築研究所の重点研究課題「住宅・住環境の日常的な安全・安心性能向上のための技術開発」(平成18～20年度)では、「住宅・都市の防犯」「歩行空間の安全性」などのテーマについて横断的に研究・開発を行っています。

この一環として全国規模の「安全・安心に関わる意識調査」(調査時期;平成20年10月、調査方法;インターネット調査、有効回答数;2,656人)を実施し、この度、コンビニエンスストア等の深夜営業規制とライフスタイル見直しに対する意識に関する部分について結果を公表することといたしました。回答者の主な属性は下表のとおりです。

回答者属性 (合計 2656 人)

性別	男 1324 人、女 1332 人
年齢	25-29 歳 363 人、30-34 歳 453 人、35-39 歳 460 人、 40-44 歳 460 人、45-49 歳 460 人、50-54 歳 460 人 (各年齢階級の男女はほぼ同数)
居住地	全都道府県にわたる (最多は東京都 337 人、最少は島根県 5 人)

(調査の背景)

いくつかの自治体で、地球温暖化対策等の観点からコンビニエンスストアをはじめとする深夜営業店舗の営業時間規制の動きが見られるようになりました。一方で、24時間型のライフスタイルにおいて深夜営業店舗は欠かせない存在となっており、規制によって生活が不便になるという声もあります。

規制によって夜型ライフスタイルが改善されれば、生活環境の静穏化、人々の健康への好影響、犯罪や非行の減少といった効果も期待されます。ただし、このうち防犯面に関しては、深夜営業店舗が街の灯りや緊急避難場所としてむしろプラスに機能しているという側面もあります。

本調査では、深夜営業規制やライフスタイル見直しに関する議論の一助として、上記の論点に関する意識を調査したものです。

(要約) ※【表〇】の記述は、別紙の該当する表を参照。

ライフスタイル見直しについては、健康に好影響があると考えた人が7割を超えたのをはじめ、メリットに同意する人が多く、ライフスタイル見直しへの同意率は45%に上りました(不同意率13%)。深夜営業規制については、地球温暖化対策として有効であると考えた人が約半数に達し、規制賛成派は37%でした(反対派22%)【表1】。ライフスタイル見直し、深夜営業規制のいずれも、男性より女性、

若年より高年の方が同意する傾向が見られました【表 4～7】。

しかし、夜間・深夜にコンビニエンスストアを利用する層は、非利用者と比べ、ライフスタイル見直し、深夜営業規制いずれへの同意率も低く、利用頻度が高いほどその傾向が見られました【表 2,8,9】。防犯に関しても、夜間・深夜利用層は、深夜営業によるデメリットよりもメリットに同意しやすい傾向があります【表 3,10】。自由や利便性を享受しているほど、それらを失いたくないという意識が働いたものと解されます。ただし、利用店舗の立地別にみると、都市部と郊外部に差があり、郊外部店舗のほうが防犯上の問題を心配される傾向にありました【表 11,12】。夜間・深夜でも比較的明るく、人目もある都市部と比べると、そうでない郊外部のほうが防犯上の問題が起きやすいとも解されます。

犯罪や非行に対する市民の不安は高く、近年では地域住民による自主防犯活動が活発に行われています。しかし、これらの活動や警察力にとって、24時間社会化は守るべき対象を増やすことを意味します。ライフスタイル見直しが地球環境問題において大きな課題であることは周知のとおりですが、犯罪や非行の問題も人々のライフスタイルと大いに関わりがあります。最近の深夜営業規制の動きは、より大きくライフスタイルに関わる問題として捉えられるべきでしょう。本調査では、店舗の立地によって利用者の防犯面の評価が異なっており、地域ごとにライフスタイル、深夜営業の問題を考え、自治体等が方針を打ち出すことは必要だと思われま

す。なお、ライフスタイル見直しや深夜営業規制への賛否に至る意識構造については、今後、より詳細な分析を行い、学会等で発表する予定です。

以上

(内容の問合せ先)

独立行政法人 建築研究所
住宅・都市研究グループ
樋野 公宏 (ひの きみひろ)
電話 029-864-6671 (直通)
029-879-0675 (グループ)
E-mail hino@kenken.go.jp

別紙

(単純集計結果)

・夜型ライフスタイル及び深夜営業規制

夜型ライフスタイル（以下 LS）の見直しによる健康への好影響、犯罪非行の減少、生活環境の静穏化については同意率（「そう思う」と「ややそう思う」の合計）が不同意率（「そう思わない」と「あまりそう思わない」の合計）を大きく上回り、多少我慢しても夜型 LS を見直す必要があるという意見への同意率は 45%に上りました（不同意率 13%）。ただし LS は個人の自由であるという意見には同意率の方が高く、自分は夜型 LS を見直すのは難しいと考える回答者は約 4 分の 1 でした。

次に深夜営業店舗の規制については、夜型 LS 改善、地球温暖化対策などの効果への同意率が不同意率を上回りました。約半数の回答者は規制により生活が不便になると考えていますが、規制への同意率は 37%に上りました（不同意率 22%）。

【表1】	←不同意			同意→	
	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	そう思う
ア) 夜型 LS 見直すと健康に好影響	1%	4%	23%	46%	25%
イ) 夜型 LS 見直すと犯罪非行が減少	2%	7%	30%	42%	19%
ウ) 夜型 LS 見直すと生活環境が静かになる	2%	5%	29%	45%	20%
エ) ライフスタイルは、個人の自由だ	2%	9%	44%	33%	11%
オ) 多少我慢しても夜型 LS 見直す必要あり	2%	10%	43%	35%	9%
カ) 自分は夜型 LS 見直すのは難しい	13%	26%	37%	19%	6%
キ) 深夜営業規制すれば夜型 LS 改善される	6%	15%	36%	32%	11%
ク) 深夜営業規制は地球温暖化対策としても有効	6%	11%	34%	34%	15%
ケ) 深夜営業規制すると生活が不便になる	3%	13%	36%	36%	12%
コ) 深夜営業店舗の規制に賛成である	9%	13%	41%	25%	12%

・コンビニエンスストアの利用頻度

時間帯別にコンビニエンスストア（以下コンビニ）の利用頻度を質問しました。「夜間」「深夜」の利用頻度は他の時間帯と比べて少なく、夜間全く利用しない回答者が 40%、深夜全く利用しない回答者が 65%に上りました。なお、夜間・深夜とも「全く利用しない」と答えたのは 1036 人（39%）でした。

【表2】	全く利用 しない	月1回	月2,3回	週1回	週2,3回	ほぼ毎日
朝（6-12時）	21%	32%	15%	14%	12%	5%
昼間（12-18時）	9%	30%	22%	18%	17%	4%
宵の口（18-21時）	19%	33%	19%	14%	13%	2%
夜間（21-0時）	40%	33%	11%	9%	7%	1%
深夜（0-6時）	65%	23%	5%	4%	2%	0%

・夜間・深夜に利用するコンビニの防犯上のメリット・デメリット

上の設問で夜間・深夜とも「全く利用しない」と答えた 1036 人を除いた 1620 人に、「あなたが夜間または深夜に最もよく利用するコンビニ」の防犯上のメリット・デメリットについて質問しました。

「緊急時の駆け込み場所として機能」、「街が明るくなり安心して歩ける」というメリットへの同意率はいずれも半数を超え、不同意率は 1 割以下でした。デメリットである「少年非行を助長している」については同意率が不同意率を上回りましたが、「夜間散歩く人が増え、犯罪被害が増加」については不同意率の方が高いという結果でした。

夜間・深夜の利用者に限定した設問ということもあり、全体的にデメリットよりもメリットへの同意率が高くなっています。

【表3】	←不同意			同意→	
	そう 思わない	あまりそう 思わない	どちらとも いえない	やや そう思う	そう思う
サ) 少年非行を助長している	5%	17%	38%	30%	9%
シ) 夜間出歩く人が増え、犯罪被害が増加	7%	24%	44%	19%	6%
ス) 街が明るくなり安心して歩ける	2%	7%	36%	45%	10%
セ) 緊急時の駆け込み場所として機能	2%	6%	29%	48%	15%

※夜間・深夜非利用者(1036人)を除く1620人の集計

(個人属性別)

・夜型LS見直しへの同意・不同意 (表1オのクロス集計)

「多少の我慢をしても、夜型LSを見直す必要あり」という質問について男女別、年齢階級別に集計しました。男女別では、女性の同意率の方が高いという結果でした(表4)。年齢階級別では、どの年代でも同意率が不同意率を上回りましたが、年代が高くなるほど同意傾向にあります。「30-34歳」「35-39歳」で不同意率が約15%(同意率は約40%)なのに対し、「45-49歳」「50-54歳」では同意率が50%以上となりました(表5)。

【表4】(性別)		男性	女性
不同意↑	そう思わない	3%	1%
	あまりそう思わない	12%	9%
	どちらともいえない	43%	42%
	ややそう思う	33%	38%
同意↓	そう思う	8%	10%

【表5】(年齢階級別)		25-29才	30-34才	35-39才	40-44才	45-49才	50-54才
不同意↑	そう思わない	1%	3%	3%	2%	2%	2%
	あまりそう思わない	11%	13%	12%	8%	10%	7%
	どちらともいえない	45%	45%	45%	44%	38%	40%
	ややそう思う	34%	32%	31%	37%	40%	39%
同意↓	そう思う	9%	7%	10%	8%	10%	12%

・深夜営業店舗規制への賛成 (表1コのクロス集計)

「深夜営業店舗の規制に賛成である」という質問について男女別、年齢階級別に集計しました。

男女別では、いずれも同意率が不同意率を上回りますが、女性の同意率が高く、同意率41%に対し、不同意率は17%でした(表6)。年齢階級別では、どの年代でもやはり同意率が不同意率を上回りましたが、年代が高くなるほど同意傾向にあります。「25-29歳」「30-34歳」では両者の差は比較的小さいですが、「45-49歳」「50-54歳」では同意率が不同意率の倍以上でした(表7)。

【表6】(性別)		男性	女性
不同意↑	そう思わない	13%	6%
	あまりそう思わない	14%	12%
	どちらともいえない	40%	42%
	ややそう思う	22%	27%
同意↓	そう思う	11%	13%

【表7】(年齢階級別)		25-29才	30-34才	35-39才	40-44才	45-49才	50-54才
不同意↑	そう思わない	12%	11%	10%	12%	7%	6%
	あまりそう思わない	16%	14%	12%	12%	13%	11%
	どちらともいえない	42%	44%	45%	37%	37%	40%
	ややそう思う	23%	21%	23%	25%	28%	26%
同意↓	そう思う	7%	9%	10%	14%	15%	17%

(利用頻度別)

・分類

まず、夜間及び深夜の利用頻度によって、下記の4群に区分しました。

- ・A群 (深夜の利用頻度が「ほぼ毎日」「週2,3回」「週1回」) : 174人
- ・B群 (深夜の利用頻度が「月2,3回」「月1回」) : 755人
- ・C群 (深夜は「全く利用しない」が夜間は利用あり) : 691人
- ・D群 (夜間・深夜とも「全く利用しない」) : 1036人

性別との関係では、男性でB群、女性でD群に最も多く分類されました。年齢との関係では、「25-29歳」「30-34歳」でB群、その他の年齢階級ではD群に最も多く分類されました。

・夜型LS見直しへの同意・不同意 (表1オのクロス集計)

利用頻度別に集計すると、いずれの群でも同意率が不同意率を上回りますが、A群では同意率24%に対し、不同意率が20%と両者にあまり大きな差がありません。全体的に、利用頻度が高いほど同意率が低く、不同意率が高くなっています。

【表8】		A群	B群	C群	D群
不同意↑	そう思わない	5%	3%	2%	1%
	あまりそう思わない	16%	15%	10%	6%
	どちらともいえない	56%	44%	42%	40%
	ややそう思う	19%	31%	38%	40%
同意↓	そう思う	5%	7%	8%	13%

・深夜営業店舗規制への賛成 (表1コのクロス集計)

全体では同意率の方が高かった設問ですが、利用頻度別に集計すると、A群、B群で不同意率が同意率を上回りました。A群では同意率17%に対し、不同意率が39%でした。対照的にD群では、同意率46%に対し、不同意率は13%でした。こちらも全体的に、利用頻度が高いほど同意率が低く、不同意率が高くなっています。

【表9】		A群	B群	C群	D群
不同意↑	そう思わない	26%	15%	7%	4%
	あまりそう思わない	13%	17%	13%	9%
	どちらともいえない	44%	43%	39%	40%
	ややそう思う	14%	18%	30%	28%
同意↓	そう思う	3%	7%	10%	19%

・夜間・深夜に利用するコンビニの防犯上のメリット・デメリット (表3サ・シのクロス集計)

夜間・深夜とも全く利用しないD群を除いて、「あなたが夜間または深夜に最もよく利用するコンビニ」の防犯上のメリット・デメリットについて聞き、利用頻度別に集計したところ、デメリットの方に群ごとの違いが大きく見られました。

表3で同意率が不同意率を上回った「少年非行を助長している」という設問ではA群のみ不同意率の方が高くなりました。逆に表3で不同意率が同意率を上回った「夜間散歩く人が増え、犯罪被害が増加」という設問では、C群のみ同意率の方が高くなりました。いずれのデメリットも、全体的に利用頻度が高いほど同意率が低く、不同意率が高くなっています。

		サ)少年非行を助長			シ)犯罪被害が増加		
【表10】		A群	B群	C群	A群	B群	C群
不同意↑	そう思わない	11%	6%	3%	11%	8%	5%
	あまりそう思わない	18%	18%	16%	25%	24%	23%
	どちらともいえない	43%	39%	35%	46%	47%	41%
	ややそう思う	20%	28%	36%	12%	16%	24%
同意↓	そう思う	8%	9%	11%	6%	5%	7%

※夜間・深夜非利用者(1036人)を除く1620人中の割合

(店舗の立地特性別)

・夜間・深夜に利用するコンビニの防犯上のメリット・デメリット (表3のクロス集計)

回答者が「あなたが夜間または深夜に最もよく利用するコンビニ」として選んだ店舗の立地特性を知るため、その店舗の駐車場の有無を質問しました。駐車場が無い店舗(374人)は都市部、有る店舗(1182人)は郊外部に立地すると考えられます。この立地特性別に、夜間・深夜とも全く利用しないD群を除いて、防犯上のメリット・デメリットへの同意率・不同意率を調べました。

メリットである「街が明るくなり安心して歩ける」については、駐車場のない都市部の店舗利用者に「そう思う」という回答が多くなりました(14%)。「緊急時の駆け込み場所として機能」は駐車場のある郊外部の同意率が高くなりました。

デメリットである「少年非行を助長している」「夜間出歩く人が増え、犯罪被害が増加」はいずれも駐車場のある郊外部の同意率が高く、不同意率が低いという結果でした。郊外部の店舗のほうが、防犯上の問題を心配する夜間・深夜利用者が多いようです。

		サ)少年非行を助長		シ)犯罪被害が増加	
【表11】		駐車場無	駐車場有	駐車場無	駐車場有
不同意↑	そう思わない	9%	4%	10%	6%
	あまりそう思わない	20%	16%	25%	24%
	どちらともいえない	37%	38%	45%	43%
	ややそう思う	24%	32%	14%	21%
同意↓	そう思う	10%	9%	6%	6%

※夜間・深夜非利用者(1036人)を除き、さらに駐車場の有無が不明な64人を除いた人1556人の集計

		ス)街が明るく		セ)駆け込み場所	
【表12】		駐車場無	駐車場有	駐車場無	駐車場有
不同意↑	そう思わない	3%	2%	4%	1%
	あまりそう思わない	6%	7%	7%	5%
	どちらともいえない	36%	36%	30%	29%
	ややそう思う	41%	47%	43%	50%
同意↓	そう思う	14%	8%	16%	15%

※夜間・深夜非利用者(1036人)を除き、さらに駐車場の有無が不明な64人を除いた人1556人の集計

以上